

令和 3年10月21日危機に強い安心社会実現調査特別委員会

◆西 委員 お疲れさまです。創志会の西でございます。先日の研修会でいろいろと被災現場の、避難所の映像を見ながら、ある意味懐かしくといたしますか、いろんなことを思い出しながら映像も見ておりました。私は、個人的なことを申し上げるのも恐縮ですが、やっぱり議員をめざした動機は95年、阪神大震災がなければ、恐らくめざしてなかっただろうなというふうに思うわけでありますが、あのときに高校2年で、1か月間、神戸に行かせていただいて、特に最初の1週間は西宮の避難所で、1人で避難所運営を、高校2年生だったんですけど、避難所運営せえと言われてまして、物資を仕分けしながら、いろんなことがありました。また、灘区の避難所で、もう本当に公式な場所では言いたくないようなこともいっぱい、いろんな悔しい思い、いっぱいしました。その後、2004年ですね、中越の地震の救援に、アウトドア慣れした環境NGOや自転車の仲間たちと一緒に、20人ぐらいで、発災1週間後に行きましたけれども、そのとき小千谷の避難所とか、川口の避難所、もしくはボランティアセンター立ち上げるために、いろいろな物資を持っていきましたけれども、95年から2004年、9年間たったにもかかわらず、避難所の現場では、神戸でいろんな思いをしながら、みんなでかんかんがくがく議論をしたことが、全く生きてないと。神戸の2か月間で、いろんなことが、2か月、3か月たつ中で、いろんなことをみんな工夫して、いろいろ、すぐ、これがないと困るとか、これ買わなきゃあ、これがないからできない。例えば、水もそうです。水が流れてないと、上水道管割れてるから何もできないみたいな議論もよくあるんですが、そうじゃなくて、例えば川の水を避難所で、学校の避難所のトイレに、水槽の上から川の水を放り込んだら、その工夫ができた学校の避難所のトイレはきれいだった。それができてない避難所のトイレは、依然として掃除ができない、水が来ないからできないんですみたいな話になると。そういう経験が、現場ではいろんな議論をして工夫して、ないなりにやったことが、全くノウハウとして中越の現場に伝わってないということがすごい悔しい思いを、発災後、1週間後ですけど、ボラセンの立ち上げをしながら思っていました。それが非常にいろんなことを思い出された研修会で、委員長、副委員長の英断に感謝をしたいなというところではありますけれども、その観点で、ぜひ今日は議論させていただきたいなと思っていただけですが、この避難所開設ですね、なかなか行かないと分からないことはたくさんあるわけですけども、いろんな方とお話しすると、ああ、これ避難所のイメージの中でしゃべってはるなということと、そうじゃなくて、別に行かなかったから悪いと全然思っていないんですが、避難所の現場のイメージがなくて、これがなきゃいけない、これを買っとかなきゃいけない、もちろんお金があれば、たくさん買えばいいんですけども、そうじゃなくて、避難所の現場のイメージを持ちながら議論してるなというのは、すごい分かるところがあります。

職員の方が皆さんがせっかく公務で東日本の現場にもいっぱい行ってくださってますし、熊

本の現場にもいっぱい行ってくださってます。そのノウハウをぜひ庁内で共有していただきたいと思えますし、またそれぞれ、自治会役員の皆さんが避難所で運営に当たっていただく予定になってますけれども、避難所運営というのは、この間の研修会でも出てましたけれども、こういうふうにポスト・イットを貼ったり、こういうふうに情報共有の回覧板をしたり、もしくは、例えば避難所運営組織のつくり方からすれば、ナンバーワン、もしくはトップ、できればトップがいいように私は思いますけれども、トップ、もしくはナンバーツのところにしっかりと女性の方が入っていただくとか、そういうノウハウも含めて、自治会の皆さんに、こういうふうに、避難所ということはこういうことが起きますよ、あんなことが起きますよ、こういうふうに回してくださいねというノウハウを庁内、もしくは地域の中で共有をしていく、そんな取組が、もっともっとやっていただきたいなど、いつも思っているわけでありましてけれども、この取組、どのように今されているか、もしくは、これからされていこうとしているかお示しをいただけますでしょうか。

(信貴委員長、中野副委員長に替わり委員長席に着く)

◎鈴鹿 防災課長 東日本大震災での課題を踏まえまして、平成25年6月に災害対策基本法が改正されまして、避難所に係る必要な安全性等、避難者の生活環境の整備に必要な措置を講ずることが市町村長等の努力義務となり、内閣府から示された取組指針では、避難所に係る研修や訓練の実施の必要性が示されております。

本市では、これまで東日本大震災や熊本地震などの発生時に被災地へ職員を派遣しており、職員を対象にした避難所運営訓練を実施する際には、その経験を有する職員が講師を担うなど、ノウハウを共有するメニューとして取り入れております。

具体的には避難所となる小学校を使用して、実際の避難所開設時に必要となる物資搬送やマンホールトイレの組立て、発電機の始動などの実動訓練のほか、避難所運営における避難者の対応をゲーム形式で学ぶHUGの体験を行っております。

一方、令和2年度包括外部監査では、防災関連のマニュアルが全職員に適切に認知・習得されていない状況にあるなどの指摘を受けました。このことから、各局各区に指摘事項等を共有しまして、今年度から全職員を対象とする研修の強化や、各局各区の危機管理担当や各所属が中心となった職場研修の推進に取り組んでおります。

また、被災地に派遣した職員の貴重な体験やノウハウの伝承が重要であることから、発災時によりスムーズな避難所の開設・運営ができるよう、引き続き、知識や技術の向上に向けた取組に工夫を図ってまいります。以上でございます。

◆西 委員 本当に取組を図っていくということですから、定量的になかなか量れない部分あると思えますけれども、ぜひ取り組んでいただきたいなと思えます。東日本に行ってください若手職員の皆さんも、聞いていたらもっともっと言いたいことある、伝えたいことある、でもなかなか伝える機会もないし、伝わり切っていない感覚があるという話も聞いた

こともあります。少し話が細かいところへ行きますが、現場を見てる人と、現場に行ったことがある人としゃべると、堺は刃物のまちだから、爪切りあるといいよねと、そういう話したときに、そうそうっていう共感をしている人は大体イメージがある人です。東日本のときも、刃物業者の皆さんに、ぜひ爪切りを現地に送ってあげてくださいって、すごい喜ばれました、そんな話をしたとき。そういう現場で、爪を、1週間、2週間いると、話すると分かっていただけだと思うんですが、黒くなってくるので、これを切れるか切れなかって、すごいストレスが変わってくるんですね。こういうことがイメージできるかどうかというのは、1つのポイントなんだと思います。すごい細かい話ですが、一事が万事でして、こういうイメージをどう共有できるかということも、ぜひお願いしたいなと。もっともっと積極的に、やっていないと言うつもりは全くありませんけど、ぜひ積極的に共有していただきたいなと思っています。

その関連で、実は現場でプロの方が派遣をされてくる、お医者さん、薬剤師さん、もしくは電気工事さん、散髪できる方、いろんな方が、プロの方が来てくださいますけど、それは時間がかかります。避難所の運営が始まってから、ある程度落ち着くまで、なかなかないです。しかしながら、実は地域の中に、電気が専門の方もいらっしゃる、もしくは薬剤師の方がいらっしゃる、様々な、建築士の方がいらっしゃるということがあると思います。例えば、避難所で薬の、普通に薬局で、市販でされてるような薬をどのように使っているか分からないということは、避難所でよくある話です。消毒液も別々の物が送られてきて、ちょっとブランド名を言うのは避けますけれども、Aという消毒液とBという消毒液を、これを分けて使わなきゃいけないのか、同じ物として取り扱っていいのかということ、やっぱり避難所リーダーとしては、素人では判断できないということがたくさん、いろんな、消毒液のみならず、いろんなことがあります。薬剤師さんが、これとこれは同じ効能だから、同じように使ってくれていいよ一言言ってくれたら、避難所運営としては安心してできる、そういうこともあります。そういった意味では、専門家の皆さんが、こういう方が地域にいてるよと、何かあったら、たまたまこの自治会長さんが薬剤師さんだったとか、ということは、なかなか地域でも知られてなかったりするんで、それはぜひ、いろんな地域資源を、資源と言っていいのか分からないですが、地域で専門家、こういう方がいるよということを共有していくという取組が必要だと思っておりますが、いかがですか。

◎大前 危機管理課長 平成27年度から3か年の事業として、市内10の小学校区をモデル校区とした避難所運営アドバイザー業務に着手しました。この取組は災害発生時の避難所運営をテーマにワークショップの形式で校区自治連合協議会をはじめ、自主防災組織の皆様のほか、民生児童委員やPTA、老人会などの校区福祉委員会、地域を構成する様々な民間事業者や専門事業者など、災害時における避難所開設・運営に関わることを想定される様々なステークホルダーに御参画いただき、避難所運営の課題などの検討を行ってまいりました。

また、避難所運営で重要なこととして、発災時には避難所へ避難者が殺到する可能性があるため、そのときに混乱しないように地域の方々が平時から避難所となる施設を把握するとともに、その収容限界も含めた避難所運営の課題や対処方法などを認識し、また議論する取組も進めてまいりました。

さらに、平成30年2月には、これらの取組を集約した地域防災力向上マニュアルを策定し、現在、各区役所が中心となり、校区避難所運営マニュアルの策定を契機とした地区防災計画の策定などの取組を進めています。以上です。

◆西 委員 10校区で避難所運営アドバイザー業務をやっていただいているということで、第一歩としては、非常に評価をしたいところですが、ぜひ、全校区に早く広げるように、そして地区防災計画の策定も進めていただいて、やっぱり地域の中で、地域の皆さんと一緒に発災後、何とか耐え忍んで、できる限り快適に避難所運営できるように進めていただきたいなど、取組の強化をお願いしたいというふうに思うわけですが、よく避難所の運営、地震の発災のときの話もよくありますけれども、今は風水害のときも、頻繁に開設をしていただいて、職員の皆さんなり、もしくは学校の校長先生、もしくは教頭先生が出動してくださって、避難所運営に当たってくださっているのをよくお見かけをしますけれども、何度か委員会で取り上げさせていただいてますが、この食事の問題ですね、大雨の中、出動していただいて、それで何時間も現場にいて、1食分は持ってきたかもしれないけど、2食目がありませんという方が、実際、過去にはいらっしゃいました。こういう課題が、本当にいいんだろうかと。私らは避難物資食べられません。かといって、目の前のコンビニも停電してたりするということもありました。そういうときに、やっぱり避難所の運営にせつかく職務として当たってくださっている皆さんにしっかりと食事も提供していただかないと、避難する地域としても、これでいいんだろうかと、まず心苦しくて、そしてなかなか避難所運営が円滑にいかないんじゃないかという懸念を持つわけでありまして、これについてはどのようにされているかお示してください。

◎鈴鹿 防災課長 避難所対応職員制度は、これまで避難所の近隣に居住する職員が開設・運営を担当する地区班員制度により運用しておりましたが、特定の職員に負担が偏ることや、できるだけ多くの職員に避難所運営を実施させ、災害対応力を向上させる必要があることから、令和元年度に対象の災害を風水害時と地震時に分けまして、風水害時には、各局各区が対応する体制としました。風水害におきましては、避難所の開設時間が長くても数日という緊急・一時的避難を目的とした指定緊急避難場所としての開設が多く、各局各区が施設管理者と連携して運営を行い、交代要員も含めて柔軟に対応しております。

また、開設期間が短期間であることや、開設当初から交代時間を予定できることから、従事期間における食料等につきましては、職員が持参することを基本としていますが、開設期間が見込みより長引いたときなど、状況により食事を取る必要がある場合には、備蓄食料を

使用するなど、臨機応変に対応する必要があると考えております。

一方、地震による開設は、避難が長期に及ぶ指定避難所として開設することが多く、区役所に参集する直近参集職員と、避難所に隣接する地域に居住する地震時選定職員などを基本に、避難者や地域の方々などと避難所運営委員会を構成して、避難所の運営を行います。

開設期間が長期間に及ぶことや、その間、容易に交代できないことも想定されることから、従事職員の食料等の確保は課題として認識しており、備蓄食料をあらかじめ従事する予定の職員に配布するなどの対応を検討していきます。以上でございます。

◆西 委員 ぜひお願いをしたいと思います。いろいろと制度改正を取り組んでいただいていると思います。令和元年度から大きく変わってきてるということだと思いますけれども、とは言いながら、避難所に行きますと、校長先生、教頭先生、踏ん張って2晩みたいなことが実際起きてます。食事についても、いや、ちょっとこれしか食べれてませんという話も、どことは申し上げませんが、そういうことがあります。そういうことも含めて、やっぱり職務に当たっていただいている皆さんの志に依存することなく、しっかりシステムとしてつくっていく、ぜひお願いしたいなというふうに思います。

あわせて、先ほど大西議員からもありましたけども、電気の供給の話というのは、避難所で非常に重要な課題になってくるわけでありまして。なかなか、全ての電源供給は停電下で起きないということはあると思いますし、なかなか電源車が来てくれるわけでもないということもあると思いますが、最低限、やっぱりスマホとか、最低限の電気供給があるのとないのとは全然違うということがあると思います。そういった意味では、各学校、全ての学校ではありませんけれども、多くの小学校等々にソーラーパネルを、これは環境の観点を中心としてですが、せっかく置いていただいていますから、これを災害時にはすぐ転用できるようにすると。場合によっては携帯の充電は1日、2日で切れますから、1週間後に電気が供給されるでは困りますので、最低限のライフラインとなっているスマホの電源供給等々を可能にしていくためにも、それぞれの避難所に設置をされているソーラーパネルを自立式に転用して、地域でちゃんと使っていただけるような仕組みづくりというのは、非常に重要なんだというふうに思いますが、一部、私の地元、出身校区の平岡小学校の防災訓練でその話をしていただいて、地域としてもこうやって使うんだなということが理解できて、必ずしも、全ての方が電気の知識あるわけじゃないですから、全ての方が使えるわけではないですけども、専門職の方が、ちょっと専門知識を持った方がいていただいたら、使えるようになっていくという仕組みをしていただくことができましたけれども、しかしながら、いろんなところにソーラーパネルありますが、それぞれ地元の方とお話をしていると、えっ、そんなことあるのと、あれを使おうと思ったら使えるのという話を言われることはたくさんありますが、やっぱり学校の先生には伝えていただいているということも聞きますけれども、地域にやっぱり専門知識があれば使えるんだよということをしつかり理解をしていただいて、必ずしも職員の皆さんが、そら最大限努力していただくということはお分かってま

すけれども、そうは言っても何があるか分かりませんから、地域の中で簡単に使えるようにしていくということが大事なんだというふうに思いますが、この理解を深める取組について、どのようにされているか、どのようにしようとしているかお示してください。

◎百済 環境エネルギー課長 本市では、地球温暖化対策の推進や環境エネルギー教育の推進を目的に、小・中学校等への太陽光発電の設置を進めており、昨年度末現在、68校に設置が完了しております。

各学校には、太陽光発電の付加機能として、災害時においてスマートフォンの充電などに利用できるよう、非常用コンセントを設置しており、昼間の非常用の電源として利用可能となっております。

地域の方の御協力の下、令和元年3月に実施した平岡小学校区の自主防災訓練では、太陽光発電の自立コンセントの使用方法等について、実演を交えた説明を行い、非常時の有効性等について、地域の方に理解を深めていただくことができました。

各学校に設置している太陽光発電について、地球温暖化対策としての重要性や、備わっている機能等について、学校関係者だけでなく、地域の方にこそ知っていただくことが重要と認識した次第でございます。以上です。

◆西 委員 非常にあのときは、私も自主防災の委員ですので、地域の皆さんに理解がふわっと広がっていくのがすごい分かって、安心が少しでも広がったかなというふうにうれしく思ったわけでありましてけれども、この取組、なかなか、まだ平岡小学校から堺市全域に広がってないように感じます。地域に、様々な地域に68校もあるわけでありましてから、この68校が少なくとも、それぞれの68校の地域では、こうやって使うんだということ、もしくは使え得るんだということが、知っていただくことが非常に重要だと思います。政策というのは、財政のこともありますから、1粒で二度おいしいといいますか、1個やれば、いろんな効果・効能をしっかりとアピールをしていくし、地域にも理解をしていただくということが大事なんだと思っておりますが、この取組、いかに平岡小学校以外で、ほかの様々な堺市の地域に広げていくかということが大事だと、広げていっていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

◎百済 環境エネルギー課長 地域の方への太陽光発電に関する御説明について、平岡小学校区での活動の成果を踏まえ、引き続き、錦綾小学校区でも同様の説明を行っており、さらに他の校区へも展開していく予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、昨年以降、防災訓練が中止になった関係で、地域への説明も休止しているところです。

一方、近年、風水害等により太陽光発電が破損し、漏電や火災が各地で発生していることから、昨年度、各学校の太陽光発電を非常時に安心して御利用いただくため、専門業者などによる安全確認や操作の手順をマニュアルに定め、全ての学校へ直接説明を行いま

した。

また、安全対策の徹底のため、操作盤内に感電防止カバーを設置いたしております。今後、こうした安全面の周知も含め、避難所における太陽光発電設備の活用について、危機管理室、各区防災担当との連携の下、地域の方への積極的な情報提供に努めてまいります。以上です。

◆西 委員　ぜひよろしく申し上げます。皆さんが担当していただいたことなんで、よく御存じだと思いますけれども、平岡小学校、最初、あの箱開けたときに、こんなんで地域の方全然分からないよと、学校の先生も何が起きてるか分からないというところから、皆さんが苦勞していただいて、いろいろテキストを打っていただいて、マニュアルをつくって、やっと分かりやすくなりました。あれをやってなければ、今も地震が起きたら、平岡小学校や、その後やっていただいた錦綾小学校の校区の皆さんは、物はある、もしかしたら使えるかもしれないけれども、実際、何を、どのボタンを押していいかも、何も分からないというような状況になってたんだと思います。しかしながら、この2校以外の68校の残り66校ですね、の校区では、依然、どこまでなってるのかなというのは不安になります。皆さんがマニュアルをつくってくださってますから、ちょっとずつは分かりやすくなってると思いますが、しかしながら、こうやってやりますよ、こうやってやってくださいよと、先ほど出しました地域資源、地域の中にも電気技術者の方もいらっしゃると思います。こういう方とも連携をしながら、どうやって使うかということ、ぜひ68校でやっていただいて、もちろん環境の取組でさらに増やしていくということだと思いますけれども、今ある68校では少なくとも、地域の皆さんがちゃんと理解をしている、知識が、専門的な、漏電とかの知識がないといけないというのはよくよく承知をしていますが、ある方がいれば使えるということは、68校では少なくとも分かっているということに、コロナでなかなか大変だった過去の経過は理解をしておりますが、これから先に、早く周知を、早く徹底をお願いを申し上げて、私の質問を終わります。ありがとうございました。